

## 第7回富山研究大会の概要

丹 羽 昇 (富山大会実行委員会委員長)

環日本海学会第7回学術研究大会は、2001年11月10・11日の両日、富山市の富山県民会館で開催された。会員以外の方々も含めて100名をこえる参加者を得て、実行委員会としては安堵したというのが正直な気持ちである。

今年の大会は21世紀最初の研究大会ということで、初日は「北東アジア地域交流の新世紀」というテーマで国際シンポジウムを行った。基調講演には、翰林大学校日本学研究所所長の池明観先生をお迎えし、パネルディスカッションでは、コーディネーターに佐藤幸男先生（富山大学教授）、パネリストに木宮正史先生（東京大学助教授）、赤池学先生（ユニバーサルデザイン総合研究所所長）、今村弘子先生（富山大学助教授）、林夏生先生（富山大学講師）をお迎えした。当初パネリストをお願いしていた李鐘元先生（立教大学教授）が急務のためご参加いただけなくなり、木宮先生にパネリストをお願いすることとなった。急な依頼にもかかわらず、ご参加いただいた木宮先生には感謝申し上げる次第である。

2002年のワールドカップ共催に向けて、日韓の交流は進展が期待されまたそうならなければならなかった。だが教科書、歴史認識問題をはじめとして、交流の障害となる問題も多い。これは、北東アジア地域交流全体にもあてはまることである。しかしながら池明観先生が述べられたように、交流こそ平和に対する保障であり、相互繁栄への道である。今回、日韓を中心に北東アジア地域諸国間の相互理解と交流の進展に長年にわたって尽力されている池明観先生に基調講演をお引受けいただいたことは、非常に意義深いことであった。

基調講演に引き続いてパネルディスカッションが行われた。ここでは、各パネリストの専門の立場から、冷戦後の北東アジア地域の状況と日本の対応、環境技術を中心とした北東アジア地域での経済ミッション創設、北東アジア経済交流の実態、日韓を中心とした文化交流等について報告・討論が行われた。また質議応答においてはフロアから率直な質問・問題提起が行われ、内容の深いパネルディスカッションとなった。

2日目は4つの分科会に分かれて、計22の報告が行われた。今大会からの試みとして、各報告に対してコメンテーターをたてることにした。予想どおり討論は活発となり、一定の成果をあげることができた。コメンテーターをお引受けいただいた諸先生に感謝申し上げたい。特に第4分科会では、会員外の布村昇先生（富山市科学文化センター）にコメンテーターをお引受けいただいた。布村先生には心よりお礼申し上げる次第である。韓国の東北亜経済学会からは、李相萬先生（韓国中央大学校）と金振郁先生（韓国 建国大学校；残念ながら共同報告者の朱星煥先生（韓国 建国大学校）はご都合により不参加）から報告をいただいた。2報告とも会場が満席となり、討論も予定時間を大幅にオーバーするという内容の濃いものであった。環日本海学会と韓国東北亜経済学会の交流の大きな成果と言える。他方今大会の反省点としては、環境に関する報告が少なかった点である。第4分科会の討論の場でも指摘されていたが、環境問題は重要な課題でありながら報告者が少ないということである。環日本海地域諸国の交流と共生を考える場合に、環境問題は重要なテー

マであるだけに今後の検討事項と言える。また当日はスライド映写機の不調というトラブルがあり、関係者の皆様にはご迷惑をおかけした。おわび申し上げる次第である。

最後になったが、富山大会の開催にあたっては、

富山県高等教育振興財団、越嶺会にご後援をいただき、インテック、富山港湾運送、日本海ガス、北陸電力から多大なご支援をいただいた。この場をかりてあらためてお礼申し上げる次第である。